

何を見に来たのですか

マタイ11:2~11 / 李正雨師

今日の福音書は、洗礼者ヨハネの弟子たちとイエス様の話し合いから始まります。そして、この話を通してイエス様は、ご自分が誰なのかを洗礼者ヨハネの弟子たちとご自分の弟子たちに確かに教えてくださいます。今日の福音書は私たちに、私たちが信じているイエス様はどんな方なのか、私たちが何に従うべきかを教えてくれると思います。今日の福音書2~3節の言葉です。「ヨハネは牢の中で、キリストのなされたことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、尋ねさせた。『来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。』」

洗礼者ヨハネは、牢に捕えられている状況です。洗礼者ヨハネは、領主ヘロデの違法な結婚を指摘し、それによって牢につながれることになりました。洗礼者ヨハネが牢につながれた後、イエス様は彼の後を継いで活動を始められます。マタイによる福音書4章によると、イエス様はヨハネが捕えられたということを聞いてガリラヤに行かれ、そこで宣教活動を始めたことが分かります。このような過程は、すべて旧約聖書の預言によるものとして、イエス様が預言されたメシアであることを示すものでした。ですから、洗礼者ヨハネは、自分の活動期間ではなく、牢の中でイエス様についてのいくつかのニュースを聞くことになったのです。彼が聞いたニュースは、おそらくイエス様の教えと奇跡と癒しについてのことだったでしょう。そして、このようなニュースはすべてイエス様がメシアであることを指しているものでした。ここでヨハネはイエス様のことを確認したかったと思います。ある人はこれを洗礼者ヨハネの疑いと言っていますが、私はそうではないと思います。少なくとも、自分の親戚であるイエス、自分が洗礼を受けたイエスが預言されたメシアか、洗礼者ヨハネには確認する必要があったからです。なぜなら、洗礼者ヨハネの使命、メシアの道を準備することが彼がやってきたことだったからです。それでヨハネは、本人の口から出てくる確かな答えを聞きたかったと思います。しかし、イエス様は確かに教えてくださいません。4節の言葉です。「イエスはお答えにならなかった。『行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。』」

イエス様の答えは、あいまいです。ご自分がメシアだと確かに教えてくださいなさいのに、そうしません。「見聞きしていることを伝えなさい」というのがイエス様の答えです。なぜイエス様はこう答えられたのでしょうか。なぜご自分の口ではなく、ヨハネの弟子たちの目と耳を通して答えようとなされたのでしょうか。これにはいくつかの理由があると思います。イギリスの神学者トム・ライトは、イエス様がこう答えられた理由は、ヘロデとの政治的な衝突を避けるためだと言います。ヘロデは王の位に執着していたので（ヘロデは王ではなく領主だった）、メシア、他の王の登場を歓迎しなかったでしょう。自分の位を守るために洗礼者ヨハネも牢につないだヘロデだったので、十分にイエス様も捕えて牢に閉じ込めることができたでしょう。これによってイエス様の公的な生涯が妨げられる可能性があるため、イエス様は直接的に答えなかったと彼は主張します。

二番目には、イエス様は洗礼者ヨハネだけでなく、彼の弟子たちにもご自分がメシヤであることを告げようとしたということです。洗礼者ヨハネと同じく、彼の弟子たちにも使命がありました。メシアの道を整え、準備すること、これは洗礼者ヨハネだけに与えられた使命ではなく、みんなに与えられた使命でした。それで、ヨハネの弟子たちは、主の道を準備するために洗礼者ヨハネに従い、イエス様はそのような彼らにご自分がメシアであることを確認させてくださったのです。彼らは、自分たちが見聞きしたことを通して、イエス様がメシアであることを確信できたと思います。

最後には、イエス様が見聞きしなさいと言われたこと、それが預言によることだったということです。今日の福音書5節の言葉です。「目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。」イエス様が言われたこの6つの奇跡は、預言者イザヤのメシアについての預言でした。イエス様は、これを弟子たちが直接経験することによって、メシアの預言が成就したということをお教えくださったのです。これよりも確

かなことはないでしょう。イエス様は、「わたしがメシアだ」というご自分の言葉よりも確実な預言の成就を通して答えられたのです。

このようなイエス様の答えは、ヨハネの弟子たちの胸をいっぱいさせたと思います。洗礼者ヨハネに嬉しいニュースを伝えることができるだけでなく、自分たちがやってきたことが無駄ではなかったからです。彼らはただイエス様の答えを聞くために来たのですが、イエス様は単なる答えだけではなく、預言の成就を示されました。神様が計画され、成し遂げる事を経験させられたのです。これは今、私たちの中でも起こっていることだと思います。私たちは、毎週礼拝をささげるために教会に集まっています。時には習慣のように、時には何の期待もせず、教会へ来ることもあります。しかし、神様は礼拝によって私たちに多くのことを経験させてくださいます。罪の告白と赦しを通して、聖書の朗読と説教を通して、聖餐式と祝福を通して、私たちに毎週神様の愛と慰めが与えられています。礼拝中に聞こえて来るすべての言葉は、自分のための言葉であり、礼拝中に行われる聖餐式は自分の救いを約束してくださる神様の徴です。祝福は私たちを守るといふ神の意志であり、聖徒の交わりは私たちが一人ではないことを示すことです。イエス様の答えを聞くために来たヨハネの弟子たちのように、私たちもここで毎週神様の恵みを経験しているのです。いつも見て聞いている礼拝ですが、だから習慣的に教会に来ているようですが、この礼拝には、私たちのための神様の摂理と愛が満たされており、神様はこの恵みを与えられるために毎週私たちを招いておられるのです。

再び福音書に戻しましょう。洗礼者ヨハネの弟子たちが帰ると、イエス様は群衆にヨハネについて話されます。今日の福音書7～8節の言葉です。「ヨハネの弟子たちが帰ると、イエスは群衆にヨハネについて話し始められた。『あなたがたは、何を見に荒れ野へ行ったのか。風にそよぐ葦か。では、何を見に行ったのか。しなやかな服を着た人か。しなやかな服を着た人なら王宮にいる。』」ヘブライ語で荒れ野は「ミドバル(מִדְבָּר)」と言います。この「ミドバル」の意味は、「御言葉と共に」という意味です。荒れ野には何もないので、頼ることができるものは、神様の御言葉のみです。洗礼者ヨハネも神様の言葉を宣べ伝えるために荒れ野に行ったのです。ところが、イエス様の時代の人々は、これを違って受け入れていました。彼らは洗礼者ヨハネに大きな力があると思いました。ヨハネがモーセやエリヤのように自分たちを救ってくれる人だと思いました。ヨハネをメシアとして思っている人もいました。しかし、ヨハネはヘロデに捕らえられ、牢に閉じ込められました。それでイエス様は、彼らのこのような考え方が正しくないと言われているのです。

7節の風にそよぐ葦とは、ヘロデの家紋を意味していると思います。当時、ヘロデ家の紋様が風にそよぐ葦であったからです。そして、8節のしなやかな服を着た人は、王族と貴族を意味するのです。つまり、イエス様は荒れ野では、こんな権力を求めてはならないと言われているのです。洗礼者ヨハネが荒れ野に行ったのは、権力のためではありませんでした。そこに神様の言葉があったからです。そしてその言葉は、主の道を整え、準備するための言葉でした。政治的な力のためのものでも、イスラエルの主権回復のためのものでもありませんでした。しかし人々は、荒れ野、御言葉の中で自分たちのための力を探していたのです。

イエス様が洗礼者ヨハネに何を伝えなさいと言われたのか、ヨハネの弟子たちに何を見させたのかを御覧ください。彼らが経験したのは、訓練された兵士や立派な戦車、強力な王ではありませんでした。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされることでした。ヨハネの弟子たちが経験したのは、このようなことであり、これが私たちに来られたメシアが行われたことでした。神様は、私たちの教会を通してこのようなことを行われるのだと思います。教会が世の中の力を持つことになるのではなく、莫大な富を持つことになるのではなく、教会を通して福音が宣べ伝えられ、世の中にはできないことが行われるようになるのです。赦しと慰め、自由と平和が伝えられ、イエス・キリストによって分裂していることが一つになるのです。イエス様はそのために私たちのところに来られ、また来られるからです。待降節第3主日、皆様は何を見るためにここに来られたのでしょうか。風にそよぐ葦やしなやかな服を着た人はここには見るできません。しかし、私たちに向けた神様の愛と恵み、御言葉と摂理は、いくらでも経験することができます。ここでイエス様と出会ってください。そして世の中が与えられない平安を得てください。これがイエス様が私たちのところに来られた理由であり、また再び来られる理由なのです。待降節の祝福が皆様と共にありますように、主の御名によって祈ります。アーメン